

シナプス

第209号

明るく 優しく たくましく



学校法人 大東中央学園

大東中央
幼稚園

大東中央幼稚園園長室だより
平成26年2月13日発行

☆園長コラム ☆キンダーカウンセラーコラム
☆担任の保育日誌から ☆身体測定結果

家庭生活・家庭教育!?

『お母様方、授乳しながら、我が子の目を見つめようともしないで携帯画面に・スマホ画面に夢中になっていませんか、子どもが話しかけているのに「ちょっとーお今こっち見てるから」「ちょっと待って」ましてや「うるさいなっ!」なんて言っは、いませんか。その言動は、我が子を仮想世界に引き込んでしまう“しつけ”になってしまいます。

我が子には、常に目を合わせて下さい。心を開いたままにして下さい。話を聞いて受け入れて下さい。言動を認めてあげて下さい。』は、昨年10月の第205号シナプスで提言した乳幼児教育に関する結論ですが、改めていわせていただければ、このことが子どもたちへの家庭教育の基本であると言えます。今や、どの小学校にも『早寝・早起き・朝ご飯＝以前のシナプスで「元気うんこ」を付け足すべきだと提言していますが……＝』の横断幕が掲げられていますが、これも家庭教育の基本でありながら、わざわざ学校で、子どもたちに呼びかけているのは、家庭教育の不足な部分を、学校が補完しているところです。

平成26年1月27日発行の日本教育新聞の記事に『3歳での生活習慣定着/学びに向かう力伸ばす』という見出しで【3歳児期に、トイレや片付け、あいさつなどの生活習慣を身につけている子どもほど、4歳児期に協調性や、がんばる力、論理性などの「学びに向かう力」が育っていくことが分かった。ベネッセ教育総合研究所が実施した「第一回幼児期の家庭教育調査・縦断調査」の結果、明らかにした。この調査では3歳児期から小学校一年生迄の期間、同一の子どもについて継続調査を行い、この間の生活・意識の変化などを調べている。母親1460人にアンケート形式で聞いた。調査によると、3～4歳児期は、子どもの「自己主張や協調性、自己抑制、好奇心、がんばる力」からなる「学びに向かう力」が大きく発達する時期。3歳児期、「夜決まった時間に寝ることが出来る」「脱いだ服を自分でたためる」などの基本的な生活習慣が、どの程度身に付いているか、3群に分けて分析。3歳児期に生活習慣がよく身に付いている高い群の幼児は、4歳児期

に「自分の言葉で順序立てて、相手にわかるように話せる」「物事をあきらめずに挑戦することが出来る」などの分野で、低い群の幼児を10%以上、上回っていた。他にも、保護者の接し方として「子どもがやりたいことを尊重し、支援している」など、子どもの意欲を尊重する態度や「子どもの『どうして、なぜだろう』という質問に答えている」など、自立的な思考を促す態度を取ることが「学びに向かう力」の形成に良い影響を与えていた。調査の担当者は「保護者の関わり方や考え方や生活習慣の習得は、幼児期の学習準備の基礎になるという相関関係が明らかになった」と調査の意義を語った。】とありました。まさに、家庭教育の基本が語られている記事だと思えます。大阪府の“学校支援地域本部事業”では、大東市内に8つの中学校区に“地域教育協議会”があり、本園は、住道中学校区の地域教育協議会＝すみねっと＝に参加して10年余りになります。すみねっと主催の大きな行事は“ふれあいフェスタ＝住道中学校を会場として、いろいろな催し物を地域の子どもたちにふれあいの場を提供する(本園からは、副園長と今西先生が中心となって「ふわふわ」で協力参加しています)＝”と“幼・保・小連携行事＝大東中央幼稚園・あすなる保育所・地域共同保育所・住道南小学校1、2年生とのふれあい行事で、園児たちが1年生の授業風景参観及び小学校探検＝”があります。先日は、来る2月26日実施の“幼・保・小連携事業”の打合せを行いました。詳細打合せ後の懇談の中で、住道南小学校一年生担任の先生方から、小学校入学迄の子どもたちの大切なこととして伺った事柄は「学習面よりも生活面を!」「じっと前を向いて椅子に座って(食事出来る)いられるように!」「服をたたんでおけるように!」「ぞうきん絞りが出来るように!」他「はさみのあつかい」「のりのあつかい」「縄跳びの縄がくくれる」等々、家庭教育で、基本的な生活能力が身に付いていたら、小学校生活がスムーズに過ごせますよということでした。

辻本 博人